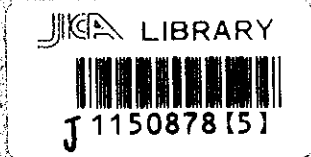


ドミニカ共和国
ハリケーン災害救済
国際緊急援助隊医療チーム

報告書

平成10年12月



国際協力事業団

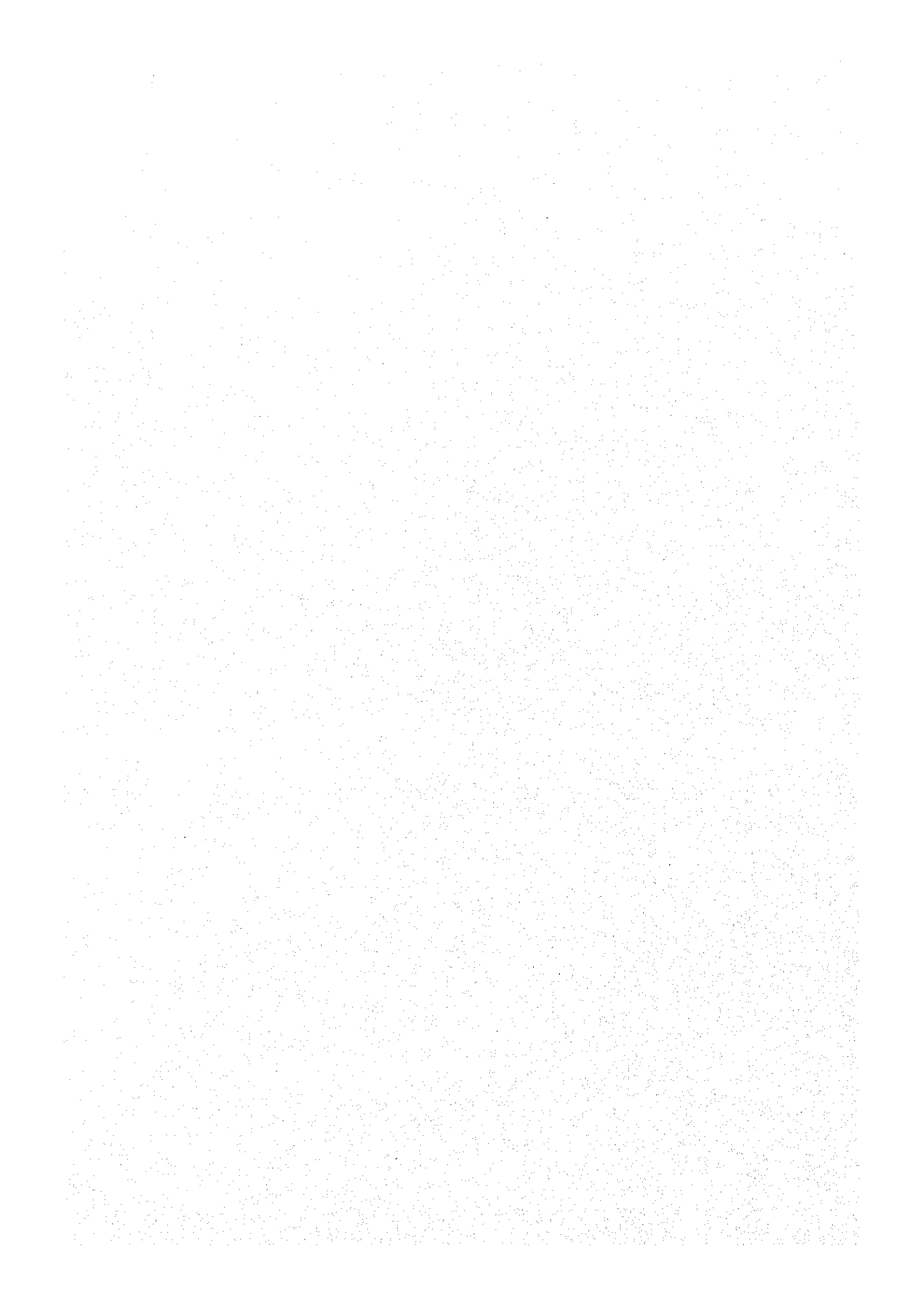
緊 災
J R
98-3

ドミニカ共和国
ハリケーン災害救済
国際緊急援助隊医療チーム
報告書

平成10年12月

国際





ドミニカ共和国
ハリケーン災害救済
国際緊急援助隊医療チーム

報 告 書

平成 10 年 12 月

国際協力事業団



1150878 [5]

序文

日本国政府は、平成10年9月30日、ドミニカ共和国政府からの要請に基づき、同年9月22日未明から同国を襲ったハリケーン・ジョージによってもたらされた災害に対し、医療活動による国際緊急援助を行うことを決定しました。

これを受けて、国際協力事業団は平成10年10月8日から10月21日まで、自治医科大学大宮医療センター箕輪良行医師を団長とする国際緊急援助隊医療チーム5名を派遣しました。同援助隊は、大きな被害のあった南東部サン・ペドロ・デ・マコリス県及びラ・ロマーナ県にて診療活動を行い、活動結果を本報告書にとりまとめました。

本報告書が、ドミニカ共和国の復旧に貢献するとともに、今後の感染症対策を目的とした国際緊急援助の活動の参考になることを期待します。

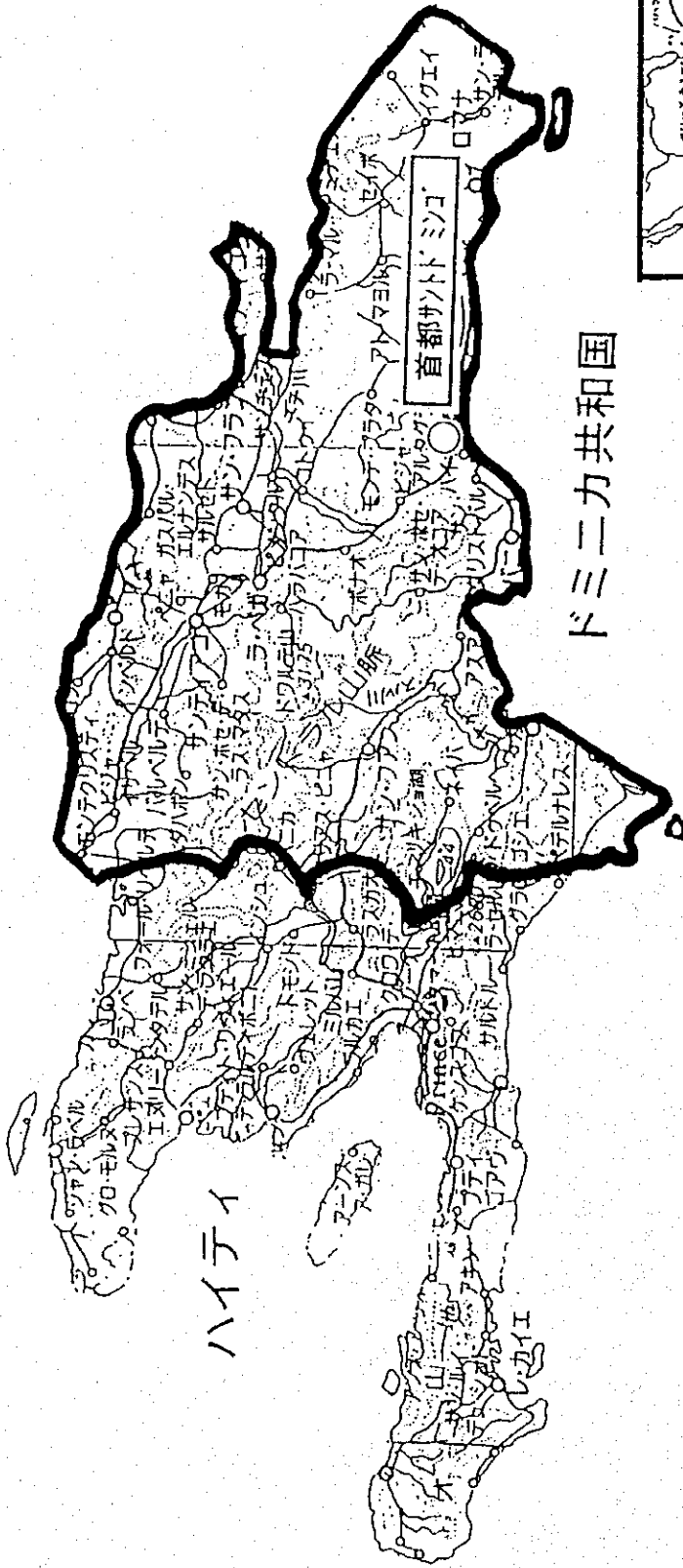
終わりに、今次国際緊急援助活動にご協力とご支援をいただいた関係者の皆様に対し、心からの感謝の意を表します。

平成10年12月

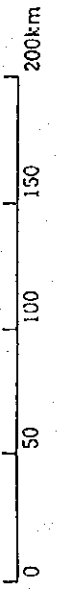
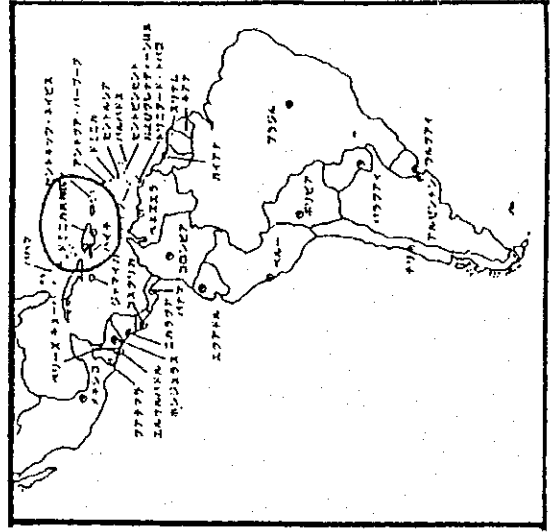
国際協力事業団

理事 阿部 英樹

大西洋



ドミニカ共和国



ハイティ

カリブ海

序文
地図

頁、執筆者（敬称略）

第1章 活動概要 1（事務局）
（日程表、メンバーリスト、面会者リスト）

第2章 団長総括報告 7（箕輪）

第3章 看護分野報告 21（白柿・鈴木）

第4章 医療調整員報告 27（玉井）

第5章 調整員報告 29（上條）

写真

第1章 活動概要

1. 災害の状況

ドミニカ共和国では、9月22日早朝から夜にかけてハリケーンが来襲し、激しい風雨により各地で死傷者、行方不明者などの人的被害、また家屋の倒壊を始め、送配電網、給配水網、通信網、道路等インフラへの被害を受けるとともに、農作物にも甚大な被害が出た。9月30日現在での被害総額は36億ドルで昨年の国家予算の1.42倍に相当するものである。

また、ハリケーン通過後には家屋を失った大量の避難民が避難所で不自由な集団生活を送っており、衛生状況の悪化による赤痢、下痢、皮膚病、結膜炎等の感染症発生が報告されている。

なお、災害対策・救援省発表の人的被害状況は以下のとおりである（9/30付）。

人的被害：死者数	249人
行方不明	75人
負傷者	557人
被災者数	27万7千人
避難者数	12万人

2. ドミニカ共和国政府の対応

「ド」政府は、被害発生後大統領府に緊急特別対策室を設置するとともに、国防省、警察、市民防衛隊等が中心となって救援復旧活動を行う一方、被害の大きさに鑑み、9月25日に国際社会に対して緊急援助を要請した。

また、「ド」政府はハリケーン通過後の衛生状態悪化による感染症の発生を受け、この対策のため9月30日、在ドミニカ共和国日本大使館を通じて我が国に対して国際緊急援助隊（医療チーム）の派遣を要請した。

3. 国際緊急援助隊の派遣

外務省は「ド」政府の要請を受け、大蔵省との協議を経て、国際緊急援助隊医療チームの派遣を次のとおり決定した。

(1) 派遣目的： 今回のハリケーン災害に関し、被害状況が深刻な東部3県の避難所及び病院において、衛生状況の悪化に伴う感染症を罹患した患者の治療を行うとともに、感染症発生の拡大の予防対策について「ド」政府に対し指導・助言を行う。

(2) 派遣期間： 平成10年10月8日（木）～10月21日（水）（14日間）
（活動日程参照）

(3) チーム構成： 計5名（団員氏名・所属等団員リスト参照）

医師（団長）	1名
看護婦（士）	2名

医療調整員 1名

JICA 1名

(4) 携行機材： 医薬品、医療器材、OA機器等

(5) 活動地： 「ド」共和国南東部サン・ペドロ・デ・マコリス県（カカコア及びエル・プエルト）、ラ・ロマーナ県（ラ・カレタ及びクマヤサ）

4. 面会者リスト

別添のとおり

5. 各国及び国際機関の対応

米国：物資援助（医薬品、食糧、家庭用プラスチック屋根、衣料品、発電機等）

人的援助（災害救助隊、医療チーム、救助犬）

仏国：物資援助（食糧、毛布、飲料水等）及び調査団派遣

西国：物資援助（食糧、毛布）及び資金援助

独国：資金援助（10万ドル）

キューバ：人的援助（医療チーム）

6. その他

今回のハリケーン災害救済に関して、我が国はドミニカ共和国に対して、9月29日毛布、スリーピングマット、医薬品、医療機材（UNIPAC）等の物資供与を実施した。

日数	月日	旅 程	内 容	宿泊地	備 考 (診療人数等)
1	10/ 8	成田→シカゴ →マイアミ→ サント・ドミン ゴ	結団式 機材の積換、引取、大使館・ JICA打合	サント・ドミン ゴ	
2	9	サント・ドミン ゴ →サン・ペドロ・ デ・マコリス	大使表敬、JICA打合 サン・ペドロ・デ・マコリス移動、 厚生省地方事務所と事前協議	サン・ペドロ・ デ・マコリス	
3	10	サン・ペドロ・ デ・マコリス ⇄ カヤコア	午前：カヤコア診療所に機材搬送・ 施設設営 午後：診療	同上	34人
4	11	サン・ペドロ・ デ・マコリス ⇄ カヤコア	終日診療、機材撤収	同上	54人
5	12	サン・ペドロ・ デ・マコリス ⇄ エル・プエルト	午後：エル・プエルト診療所に機材 搬送・施設設営 夕刻：厚生省ラ・ロマーナ地方事務 所との事前協議	同上	
6	13	サン・ペドロ・ デ・マコリス ⇄ エル・プエルト	終日診療、機材撤収	同上	134人
7	14	サン・ペドロ・ デ・マコリス ⇄ サント・ドミン ゴ/コンスエロ	被災地視察、物資調達、N. Y. 市 チームからの情報入手	同上	
8	15	サン・ペドロ・ デ・マコリス ⇄ ラ・カレタ	午前：ラ・カレタに機材搬送・診療 施設設営 午後：診療	同上	58人
9	16	サン・ペドロ・ デ・マコリス ⇄ ラ・カレタ	終日診療、機材撤収	同上	99人
10	17	サン・ペドロ・ デ・マコリス ⇄ クマヤサ	午前：クマヤサ避難所に機材搬送・ 診療施設設営、ラ・ロマーナ病院視察 午後：診療 夕刻：サン・ペドロ・デ・マコリス 及びラ・ロマーナ厚生省地方事務所 への報告	同上	54人
11	18	サン・ペドロ・ デ・マコリス→ サント・ドミン ゴ	午前：機材の撤収 午後：サント・ドミンゴへ移動 夕刻：大使報告	サント・ドミン ゴ	診療人数計： 433人
12	19	サント・ドミン ゴ→ニューヨー ク	午前：厚生本省へ報告 帰路	ニューヨーク	
13	20	ニューヨーク		機中	
14	21	→成田	成田到着、解団式		

ドミニカ共和国ハリケーン災害救済 国際緊急援助隊（医療チーム）メンバーリスト
 JAPAN DISASTER RELIEF TEAM (MEDICAL TEAM) FOR HURRICANE DISASTER IN DOMINICAN REPUBLIC

氏名 (NAME)	所属先・役職 (OCCUPATION)	指導科目 (ASSIGNMENT)
箕輪 良行 Dr. Yoshiyuki Minowa	自治医科大学大宮医療センター DEPARTMENT OF INTEGRATED MEDICINE, JICHI MEDICAL SCHOOL OMIYA MEDICAL CENTER	総括・救急医療 LEADER・ACUTE MEDICINE
白柿 美津子 Ms. Mitsuko Shirakaki	みい診療所 MII CLINIC	救急看護 ACUTE NURSING
鈴木 秀明 Mr. Hideaki Suzuki	JMTDR登録看護師 JMTDR REGISTERED NURSE	救急看護 ACUTE NURSING
玉井 京子 Ms. Kyoko Tamai	JMTDR登録調整員 JMTDR REGISTERED COORDINATOR	医療調整 MEDICAL COORDINATION
上條 直樹 Mr. Naoki Kamijo	国際協力事業団派遣事業部技術者管理課 TECHNICAL PERSONNEL DIVISION, EXPERT ASSIGNMENT DEPARTMENT, JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY	業務調整 COORDINATION

面会者リスト

氏名	役職
(1) 日本大使館	
赤沢 正人	ドミニカ共和国特命全権大使
並木 芳治	一等書記官
田中 忠重	二等書記官
高世 奈奈子	専門調査員
(2) JICA事務所	
青山 豪	所長
西田 義弘	次長
高橋 政行	副参事
大場 美紀子	所員
(3) JICA専門家等	
羽田 由紀子	企画調査員（開発計画）
(4) ドミニカ共和国厚生省	
セルヒオ・サリタ	計画・技術担当次官
Dr.Sergio Sarita	
メルセデス・ロドリゲス	サン・ペドロ・デ・マコリス県担当次官
Dr.Mercedes Rodriguez	
ホセ・レジェス	ラ・ロマーナ県担当次官兼事務所長
Dr.Jose Reyes	
エマニュエル・メンドーサ	サン・ペドロ・デ・マコリス事務所長
Dr.Emmanuel Mendoza	
マリア・イダルゴ	サン・ペドロ・デ・マコリス事務所看護課長
Maria Hidalgo	
ニウルカ・フェリペ	サン・ペドロ・デ・マコリス事務所看護婦
Niurca Felipe	
ルイス・メイヤー	ラ・ロマーナ県事務所疫学担当官
Dr.Luis Meyer	
シオマラ・ベルドモ	ラ・ロマーナ県事務所計画・調整担当官
Dr.Xiomara Perdomo	
ウーゴ・ラミレス	カヤコア診療所医師
Dr.Hugo Ramirez	
ハラケル	カヤコア診療所医師
Dr.Haraquel	
ミレージャ	エル・プエルト診療所医師
Dr.Mireya	

イパティアン・ヴァルガス Dr. Ipatian Vargas	エル・プエルト診療所医師
リリー Lily	エル・プエルト診療所看護婦
マルタ・リバート Dr. Marta Libert	ラ・ロマーナ病院医師
ホッジ Dr. Hodge	ラ・ロマーナ病院医師
フィヨール Fiyor	ラ・ロマーナ病院看護婦
ブレンダ Blenda	ラ・カレータ地域普及員
フェリス・サルダーニャ Feliz Saldana	診療場所（住宅）提供者
エルネスト・フェラール Ernesto Ferrar	ラ・カレータ小学校長
マリーナ・デ・ロドリゲス Marina De Rodriguez	ラ・カレータ小学校教諭
メディーナ・セデーニョ Dr. Medina Cedeno	キロメトロ・ディエス・デ・クマヤサ診療所医師
ソベット・パウラ Dr. Sovet Paula	キロメトロ・ディエス・デ・クマヤサ診療所医師

(5) その他

榎本 秀爾	在シカゴ総領事館
富来 和之	在マイアミ総領事館
伊原 隆	日本航空米国中西部統括マネジャー
ジェラード・マッカティー Gerard McCarty	ニューヨーク市非常時マネジメント事務局

第2章 団長総括報告

1. はじめに

今回の国際緊急援助隊派遣に際して多くの方々から多大な助言と協力をいただいたことにまずお礼申し上げます。安全に、充実した活動を送ることが出来たのはJICA、外務省、ドミニカ共和国保健福祉省、ドミニカ共和国日本大使館のおかげであり、今回の緊急派遣を了承してくださった船橋市、自治医科大学の理解によるものです。重ねて感謝いたします。

さて私たちの今回の活動はいくつの特徴があります。第一に災害発生から2週間経過した亜急性期に感染症治療を主な目的として緊急派遣され場合の一つのモデル的活動をした点です。次に緊急援助隊として現場活動の経験が一人もないメンバーから構成されたにもかかわらず、ほぼ初期の目的を達することが出来たのは、隊員の海外青年協力隊や阪神大震災での体験、JDR中期研修の成果、常備資機材（ジュラルミンケース）の利用が大きかったと思います。第三にラテンアメリカへの派遣は例が少ないが、駐日ドミニカ共和国レオン大使のお見送り、ドミニカ共和国赤澤大使の診療視察、ドミニカ共和国移民日系1世との交流などを含めて、国際交流の一端を担うことができました。これらを以下の報告書のなかで報告いたします。なお活動の行程、スケジュール、人員、施設、資機材の詳細に関しては別項に詳しいので本稿では省きます。

2. 亜急性期の災害派遣としてひとつのモデル的活動であった

災害発生が9月23日で援助隊到着が10月8日、災害発生15日目であった。この間に、国連や各国政府、NGOの国際社会による災害援助が開始され、すでにいくつかの報告書が発表されていた。ハリケーン「ジョージ」の暴風雨による被害で死亡者200人以上、電気や水のインフラストラクチャー、食料や家屋の日常生活に当該国の歴史上有数の大きな惨事になっていた。そのために衛生状態が悪化して感染症の発生が予測されるというものであった。

以上のような前提となる情報をもとに、細菌性腸炎（赤痢、腸チフス）、アメーバ赤痢、細菌性結膜炎、創感染、マラリア、デング熱などの感染症と高血圧、頭痛、不眠、風邪、けが、便秘などの日常的愁訴の増加を予想した。準備した資機材もこれにあわせた。熱帯で島国である現地の特殊事情を把握することには限界があるだろうと考えて、現地の医師や保健婦、看護婦と接触してから対応する事が重要で、事前の予測ははずれても仕方がないと隊員と話していた。

患者にとって継続した診療と診療へのアクセスを確保することが特に重要と判断して、現地入りして4箇所各地区で診療活動を開始する時点から、現地の医師、看護婦、診療所スタッフと協同して活動した。トリアージ、診療、投薬、処置、説明という役割に関して、日本の隊員7人とともに現地スタッフが常時7～8人いて働いた。彼らに患者と診療のフォローを依頼するためにカルテや診療情報を毎日活動終了時に報告、連絡、相談した。

実際に約7日間で430人弱を診療した。感染症は209人(49%)で多く、非感染症の内科的な病気が193人(45%)、外傷25人(6%)であった。小児が205人(48%)と多かった。表-1に重要な診断名と患者数を記した。また全患者のリストを診療日毎に付録としてつけた。緊急対応や後方病院紹介となったものが数名であった。またPTSD(外傷後ストレス障害)と思われる患者を数名診療した。現地サン・ペドロ・デ・マコリス県の保健担当者から得た1997年度の疾病統計をみると、「当該月においてはインフルエンザ等上気道炎、下痢、急性胃腸炎、肺炎、気管支炎、肺結核の順に多かった(表-2)。以上の結果から、主要な感染症が地域に蔓延しているとは考えられなかった。

当初から遠方である現地の医療事情に通じていない日本の救援隊が長期にわたり活動するには限界があると予想していた。そこで現地医療スタッフに私たちの診療情報と使用薬剤、機器を提供して継続的に診療してもらうことを目標にした。また幸いにも、診療結果から主要感染症の蔓延は否定的だったので、日本からの二次隊派遣は不要と判断した。

災害亜急性期で現地の医療機関が不完全であってもほぼ平常に診療していた今回のような事例では、現地診療スタッフとの協同と情報、物品委譲を初めから意図した緊急援助隊活動が一つのモデルとなる。日本隊だけの完結型ではない活動だが、私たちには非常に貴重な体験となった。実際に診療最終日に現地の保健福祉省県事務所幹部との反省会でメイヨ医師の感想が述べられた。私たちの活動を見聞して災害緊急時に組織的にどういう役割分担で何をやるかわかったし、自分たちが役に立っていると実感出来たと話してくれた。私たちの活動が現地のスタッフに災害医療の原則を理解してもらう上で教育的であったと思われる。

3. 国際緊急派遣が初めての隊員構成での可能性

今回の緊急派遣隊の隊員は、海外青年協力隊の経験者2人、阪神大震災のボランティア経験者2人、中米JICA勤務経験者1人でこのうち4人がJDR中期研修修了者であった。初めて緊急派遣で外国の現場に臨むものばかりであった。10月8日に初めて成田の団結式で出会い、仕事を現場で実施して、満足な結果を出すことができたのは、専門職としての能力が十分であったり人間的な面が良好だったのはもちろんだが、共通の体験、特にJDR中期研修と常備資機材によるところが大きいと考えられた。

ドミニカ共和国滞在中、日常的に活動のなかで「JDRマニュアル」をみて、国内での研修時(すでに数年以上も前のものもいる)にどうしたかを思い出しながら討論した。これが非常に大きな基本的な認識となっており、それに中米や神戸での活動体験が修飾因子となった。私個人に限れば1983年10月3日の伊豆七島三宅島雄山噴火災害での医師としての被災体験が大変に参考となった。

いずれにしても国際緊急援助隊の経験がなかったチームであっても、一定の成果を出して、安全かつ平穩に活動することが出来た。実際、先に述べた反省会の医師の言葉に、始めた出会って結成されたチームがこのように組織化された仕事をしたことに賞賛があった。大げさにいえばこれは我が国における国際協力活動が少しずつではあるが、

堅実に発展してきたことが背景にあって実現したと考えられる。以上は今回の派遣が実証した一つの大きな結果である。

4. 国際交流への貢献

成田空港での結団式に出席された駐日ドミニカ共和国レオン大使が、健康に留意して感染症診療に成果をあげてもらいたいと大きな期待を述べると同時に、国民との交流をしてもらいたいと話してくださった。現地では10月16日のカレタ地区の民家での診療にドミニカ共和国赤澤大使の視察が行われた。ドミニカ共和国と当該地域における私たちの活動に対して大きな期待があることが実感された。また、1960年代にドミニカ共和国移民した日系1世との隊員との交流があり現地の実状の一端に触れることができた。

10月19日に帰国の途につく私たちに、活動報告に伺った保健福祉省の次官から感謝状が授与された。非常に短期間のドミニカ共和国での滞在であったが、少なからぬ人々に出会いその災害医療に貢献できたと確信している。

以上緊急援助隊団長として考えたことと個人的感想をふまえて述べました。

表-1

病気疾病順位		
順位	病気/疾病	人数
1	風邪 (ARI)	55
2	下痢、腸炎、脱水、アメーバ赤痢	32
3	回虫症、寄生虫	16
4	胃炎	15
5	ぼうこう炎、尿路感染症	14
6	白せん症	11
7	結膜炎	9
8	耳垢、外耳炎	9
9	腰痛症 (LBP)	9
10	伝染性膿か疹	9
11	緊張性頭痛	9
12	筋痛症 (頸部、四肢、体幹)	7
13	婦人科的問題 (筋腫、内膜症)	7
14	気管支炎	5
15	中耳炎	5
16	高血圧	5
17	変形性関節症 (膝、股)	5
18	睡眠障害、うつ、PTSD	5
19	結核 (肺、頸部リンパ節)	3
20	喘息	3
まれな病気	丹毒	1
	マラリア	1
	フィラリア	1

全患者リスト

10月10日

日時	氏名	年齢	性別	住所	主訴	診断名	処置	処方
10月10日	M.E	49	M	1	腹痛	膀胱炎		NA18T
	E.B	63	M	1	発熱、下痢			ブスコ6T
	V.L.S	60	F	2	腰痛症	腰痛症		ブルフェン 6T
	J.M.J	48	M	1	掻痒感、	皮膚炎		バファリン6Tオイラク10G
	A.P	43	M	1	右下肢痛		排膿	ピクシリン18
	M.M	40	F	2	腹痛	胃炎		セルベ 9
	J.G	41	M	2	腹痛			ブスコ6T
	A.L.S	23	F	2				バファリン4
	M.L.S	12	M	1	下肢創痛	裂創		ピクシリン15
	F.V	40	M	1	右手創痛	裂創	創洗浄	ピクシリン18
	P.F	56	F	1	下腹部痛、下痢	下痢症		ビトレン 6
	J.R.S	37	M	1		ARI		アズレン 6
	G.R	5M	F	1	下痢	下痢症	T 顆粒投与	T 3 顆粒 1 ORS1
	L.R	2	M	1	発熱	ARI		なし
	F.A	84	M	1	風邪気味	健康		なし
	G.B	1.3M	F	2	発熱	アメーバ	点滴	フラジール6
	O.L.S	3	F	1	eye PROBLEM	結膜炎		タリビット点眼1
	P.V	25	M	2	左下肢創痛	裂創	切開	ピクシリン6 GM軟膏1
	M.V	1.9M	M	1	下痢	脱水症	T 顆粒投与	T 3 顆粒 1 ORS2
	F.V	52	M	2	腹痛、下痢	下痢症		CP18
	D.J	1	F	1	下痢	脱水症		なし
	J.S	30	M	1	息苦しい	喘息		ネオフィリン6
	P.L.S	81	M	1	下肢の掻痒感	皮膚炎		ポララミン 6 レスタミン軟膏1
	C.P	84	F	1	腹痛、首痛	胃炎		ブルフェン 6 セルベックス 6
		3	M	1		外傷		
		5	M	1		外傷		
		4	M	1		外傷		
		7	F	1		外傷		
		5	F	1		外傷		
		2	F	1		外傷		
		6	F	1		外傷		
		7	F	1		外傷		
		8	M	1		外傷		
		6	M	1		外傷		

年齢	性別	住所	主訴	診断名	処置	処方	備考	
35	1	1	F	2	四肢痛、腹痛		バファリン6T	
36	2	1	F	2	下肢痛 掻痒感		バファリン6T	
37	3	1	M	2	発熱	風邪	小バファリン12T	
38	4	2	F	2	腹痛	健康		問題なし
39	5	2	M	2	耳痛	外耳炎	タリビット点眼1本	
40	6	2	F	2	下腹部痛	膀胱炎	NA18T	
41	7	3	F	2	胸部圧迫感	高血圧	ネオフィリン4T、アダラート9C	
42	8	3	F	1	膝痛			
43	9	4	M	1	下腹部痛	胃炎	ブスコパン4T	
44	10	5	M	1	腹痛		バファリン6T	
45	11	7	M	2	SKIN PROBLEM		マイコスタチン軟膏	
46	12	8	M	1	前立腺肥大	BPH		現地医者へ
47	13	9	M	2	嘔吐下痢		T顆粒投与 S Pシロップ30、ORS1	
48	14	9	M	2	嘔吐下痢発熱	腸炎	T顆粒投与 ORS1クロマイシロップ18	
49	15	9	F	1	下痢	赤痢	T顆粒投与 クロマイシロップ15 ORS1	
50	16	10	F	1	痒み	白癬	マイコスタチン軟膏	
51	17	12	F	2	胸背部痛	結核	アミノフィリン6	現地医者へ
52	18	12	M	1	右足底部創痛	裂創	ブンク ビクシリン9	
53	19	17	F	2	頸部痛		ホリゾン6バファリン6	
54	20	21	M	1	頸部problem	白癬	クロススタチン軟膏	
55	21	23	F	1	咳		小バファリン6アミノフィリン6	
56	22	26	F	1	咳	ARI	メジコンシロップ24	
57	23	26	F	1	咳	ARI	メジコンシロップ15	
58	24	28	M	2	咳	ARI	小バファリン8	
59	25	29	M	2	胸腹部痛	LBP	ボルタレンSP6	
60	26	31	M	1	下痢	腸炎	T顆粒投与 ORSタリビット点眼1	
61	27	33	M	1	咳 息切れ	喘息	アミノフィリン8	
62	28	33	M	1	skin problem	湿疹	マイコスタチン軟膏10	
63	29	35	F	1	skin problem	伝染性膿疱瘡	レスタミン軟膏6	
64	30	36	M	2	skin problem	湿疹	ボララミン6	
65	31	40	F	2	発熱	ARI	小バファリン8	
66	32	40	M	1	咳	ARI	アズレン6アミノフィリン6	
67	33	41	M	1	下痢	腸炎	T顆粒投与 ORS1フラジール6	
68	34	43	F	1	爪の問題	湿疹	フラジール12	
69	35	44	F	2	発熱	ARI		現地医師へ
70	36	47	F	2	口唇aphtha	ヘルペス	リンデロン軟膏5	
71	37	48	F	1				
72	38	58	M	1	右大腿部痛	筋痛症	バファリン6	
73	39	60	M	2	lip problem	口唇裂創	リンデロン軟膏5	
74	40	60	F	2	鼻の問題	鼻部血管種		要手術
75	41	64	F	2	skin problem	白斑		現地医師へ
76	42	64	M	1	腰痛	筋痛症	バファリン6	
77	43	66	M	2		下腿切創	ゲンタシン軟膏	
78	44	70	F	2	lip problem	難治性潰瘍	テラマイ眼軟膏	
80	45	6M	M	1	右下肢痛	フィラリア		現地医師へ
79	46	73	M	2	skin problem	湿疹	ボララミン6 レスタミン軟膏	
81	47	76	F	2	eye problem	結膜炎	タリビット点眼	
82	48	78	F	1	下痢	下痢症	T顆粒投与 ORS1	
83	49	1.6M	M	2	下痢 嘔吐	下痢症	T顆粒投与 ORS1	
84	50	1.M	M	2	finger proflen	爪剥離	小切開 ビクシリン9小バファリン18	
85	51	10N	M	2	腰痛	胃腸炎	健胃錠6 ビオフェルミン6	
86	52	2.5M	M	2	腰痛	筋痛症	バファリン6	
87	53	4M	M	2	耳の痛み	中耳炎	ビクシリン18ブルフェン9	
88	54	4M	M		頸部皮膚炎	白せん	マイコスタチン軟膏	

89	1	1	70	M	左傍腹痛	胃結石	ブスコパン6T
90	2	1	51	F	腰痛 熱	腎盂腎炎	ピクシリン18 Tバファリン8
91	3	1	34	F	下腹部痛	骨髄炎	バファリン4
92	4	1	39	F	頸部痛	筋肉痛	ホリゾン4バファリン4
93	5	1	29	F	下腹部痛	膀胱炎	NA18
94	6	1	1	F	下痢	痔瘻	T3投与 ORS1タロマイシロップ10
95	7	1	10	F	耳痛	外耳炎	タリビット耳1
96	8	1	9	F	SKIN PROBLEM	湿疹	レスタミン軟膏5
97	9	1	44	F	高血圧	高血圧	アダラート9 バファリン8
98	10	1	79	M	耳痛	中耳炎	
99	11	1	32	M		切創	3M固定 絆トキ0.5
100	12	1	74	F	下腿痛	変形性股関節症	バファリン6
101	13	1	60	F	頸部痛 下腿痛	足関節捻挫	バファリン4
102	14	1	33	F	下腹部痛	カンジタ膣炎	フラジール6
103	15	1	1.5M	F	下痢	下痢症	
104	16	1	60	M	高血圧	右不全房症	
105	17	1	60	F	EAR PROBLEM	耳垢症	
106	18	1	51	M	胸痛	穿孔性頸膜炎	点薬 ソルラクト
107	19	1	70	M	高血圧 動悸 頸部痛	頸性頸痛	バファリン4
108	20	1	56	F	左下腿痛	難治性皮膚潰瘍	バファリン4
109	21	1	5	F	下腹部痛	腸虫症	
110	22	1	8	F	下腹部痛	腸虫症	
111	23	1	7	F	下腹部痛	腸虫症	メベタゾール6
112	24	1	28	F	下腹部痛	膀胱炎	ウイックマイロン18
113	25	1	3	F	喉 熱	扁桃炎	ピクシリンドライシロップ30ml
114	26	1	5	M	SKIN PROBLEM	頭皮裂創	ゲンタシン軟膏3g 絆トキ0.5
115	27	1	70	F	高血圧 腰痛	筋痛症	バファリン4
116	28	1	41	F	腰痛	胃炎	セルベックス6
117	29	1	12	F	足指痛	爪周炎	ピクシリン6
118	30	1	21	F	FOOT PROBLEM	虫さ	マイコスタシン15g
119	31	1	10M	F			
120	32	1	60	F	頸部痛	頸性頸痛	ホリゾン4
121	33	1	65	F	心か悸痛	胃炎	セルベックス6
122	34	1	86	F	頸部痛	筋痛症	バファリン4
123	35	1	74	M	下腹部痛	変形性股関節症	バファリン6
124	36	1	28	F	熱 下腹部痛	腸胃捻挫	ボルタレン3
125	37	1	63	F	喘息 高血圧	喘息	アミノフィリン4
126	38	1	76	M	折撲傷	前立腺肥大症	
127	39	1	64	F	喉	慢性気管支炎	エリスロマイシン6 アミノフィリン6
128	40	1	56	F	喉 喉痛	上気道炎	アミノフィリン4
129	41	1	34	F	腰痛 熱	腰痛症	バファリン4
130	42	1	77	M	筋肉痛	正常	
131	43	1	47	F	胸痛 下腹部痛	子宮筋腫	
132	44	2	10	M	SKIN PROBLEM	上気道炎	バファリン8
133	45	1	20	F	創傷	頭皮裂創	ナート ピクシリン18 絆トキ
134	46	1	20	F	目が赤い	出血性結膜炎	テラマイシン眼1
135	47	1	31	F	熱 喉が痛い	化膿性扁桃炎	ピクシリン18
136	48	1	95	M	筋肉の痛み	筋痛症	バファリン4
137	49	1	21	M	耳痛	外耳炎	タリビット耳1
138	50	2	40	M	SKIN PROBLEM	帯状疱疹	リンデロン1 ボルタレン6
139	51	1	48	F	SKIN PROBLEM	結核性えきかリンパ節炎	
140	52	1	6	F	熱	ARI	バファリン12
141	53	1	78	M	関節の痛み 歯の痛み	多関節炎	バファリン4
142	54	1	8	M	高血圧	ARI	
143	55	1	7	M	腰痛	穿孔性中耳炎	小バファリン18 ピクシリンドライシロップ60ml
144	56	1	1.8M	M	歯痛 喉	結膜炎	タリビット耳1
145	57	1	31	F	SKIN PROBLEM	白濁症	ボララミン6
146	58	1	1.4M	M	下痢	脱水 下痢 中耳炎	ピクシリンドライシロップ45 マイコスタシン軟膏1
147	59	1	30	M	頭痛 めまい	暑	ホリゾン6 バファリン6
148	60	1	9M	F	喉 熱	ARI	ホンターシロップ15 メジコンシロップ15
149	61	1	60	M	腰痛 頸部痛	筋痛症	バファリン4
150	62	1	9	F	めまい 食欲不振	腸虫症	メベタゾール2
151	63	1	24	M	喉	ARI	アミノフィリン4 バファリン4
152	64	1	5	M	腰痛	寄生虫	
153	65	1	5	M	SKIN PROBLEM	湿疹	レスタミン軟膏5g
154	66	2	4	F	SKIN PROBLEM	小児ストルフルス	レスタミン軟膏5g ボララミン 2
155	67	1	2	F	喉	喉痛 気管支炎	アミノフィリン 3 ピクシリンドライシロップ45
156	68	2	2	M	喉 熱	ARI	小バファリン4
157	69	1	43	F	腰痛	ARI	ブルフェン12 アミノフィリン6
158	70	1	38	F	下腹部痛	尿路感染症	ウイックマイロン12
159	71	1	40	F	熱 喉	ARI	アミノフィリン6 ブルフェン6
160	72	1	12	F	喉	ARI	
161	73	1	14	F	立ちくらみ	過多月経 貧血	
162	74	1	50	F	喉 熱	ARI	
163	75	1	52	M	下腹部痛	大腸憩室炎	バファリン4
164	76	1	44	F	腰痛	椎間炎	アズル6
165	77	1	1	M	喉	ARI	アミノフィリン4
166	78	1	12	F	腰痛	鼻炎	
167	79	1	10	F	目が赤い	結膜炎	タリビット眼1
168	80	1	47	M	腰痛	難治性皮膚潰瘍	ピオフェルミンR9
169	81	1	12	F	眼の問題	出血性結膜炎	テラマイシン眼軟膏1
170	82	1	54	M	眼の問題	角膜炎ヘルペス	テラマイシン眼軟膏1
171	83	1	3	F	腰痛 PROBLEM	毛じらみ	ミューズ石鹸1 オイラックス軟膏1
172	84	1	19	F	貧血		ピトレン6
173	85	1	30	M	腰痛	胃炎	セルベックス4 バファリン4

場所	年齢	性別	主訴	診断名	処置	薬剤	備考
174	86	1	38	F	腹痛	胃炎	健胃錠12
175	87	2	38	F	腰痛	胃炎 痔	セルベックス9
176	88	1	40	F	下腹部痛 腰痛	膀胱炎	ウインタマイロン18
177	89	1	24	M	腹痛	筋痛症	バファリン6
178	90	1	78	M	顔面痛	腸胃障害	ホリゾン6
179	91	1	47	M	腰痛 頸部痛	腰痛症	バファリン6
180	92	1	19	F	腰痛 頸部痛	膀胱炎	ウインタマイロン18
181	93	1	31	F	腹痛	子宮内膜炎	バファリン4 ゲンタシン軟膏5g
182	94	1	47	F	下腿痛	胃炎	セルベックス6 プスコパン6
183	95	1	11	M	眼が赤い	四虫症	メベンダゾール6
184	96	1	57	M	腰痛	変型性膝関節症	ボルタレン6
185	97	1	39	F	腰痛	仙腸関節炎	バファリン6
186	98	1	17	F	腰痛	気管支炎	ピクシリン6
187	99	1	35	F	腰痛	尿路上皮症	オゼックス9
188	100	1	43	F	やけど 身体の痛み		バファリン3 健胃錠3
189	101	1	2	F	熱		ピムシンドライシロップ アセトアミノフェン
190	102	1	3	F	痔の問題	気管支炎	メジコン プンタール
191	103	1	13	F	風邪	風邪 寄生虫	メジコンシロップ メベンダゾール
192	104	1	47	F	頭痛	便秘	ボルタレン プルセンド
193	105	1	70	F		尿道炎	ウインタマイロン
194	106	1	47	F		尿道炎	ウインタマイロン
195	107	1	3	F		アトピー性皮膚炎	メベンダゾール
196	108	1	6	F		扁桃腺炎	アモキシシリン メベンダゾール
197	109	1	8	F	咳	風邪	メベンダゾール メジコンシロップ
198	110	1	2	M	熱		アセトアミノフェン メジコンシロップ
199	111	1	4	F	咳	風邪 寄生虫	メジコンシロップ メベンダゾール
200	112	1	9	M		寄生虫	メベンダゾール
201	113	1	14	F		風邪	風邪薬
202	114	1	1	F		風邪	メジコンシロップ
203	115	1	31	F	腰痛		ウインタマイロン
204	116	1	1	F		風邪	風邪薬
205	117	1	47	M			ボルタレン
206	118	1	40	F	頭痛		アルドメド
207	119	1	42	M	右足外傷		ボルタレン
208	120	1	17	F	食欲不振	貧血	ビタミン剤
209	121	1	38	M	胃中の痛み	結核炎	ボルタレン
210	122	1	12	F	喉の痛み	頭痛	アクロマイシン ビトレン
211	123	1	40	F	頭痛 めまい		ビトレン
212	124	1	13	F	頭痛		ボルタレン
213	125	1	4	F	熱		バファリン
214	126	1	30	M	腰骨の痛み	尿道炎	ウインタマイロン
215	127	1	16	M	腰痛	尿道炎	ウインタマイロン
216	128	1	77	F		胃炎	ウインタマイロン
217	129	1	-	M	胃痛	胃炎	プスコパン
218	130	1	10	F		寄生虫	メベンダゾール
219	131	1	18	F	胃痛	胃炎	プスコパン
220	132	1	6	F	腰痛	寄生虫	メベンダゾール
221	133	1	-	F	胃痛	貧血	アンチアシド ビタミン剤

10月15日

222	1	10月15日	1	67	F	左肘痛	痲風	
223	2		1	5	F	SKIN PROBLEM	丹毒症	ゲンタシン軟膏塗布
224	3		1	4ヶ月	F	咳	ARI	
225	4		1	80	F	咳 痰	大腸炎	
226	5		1	2	F	眼の熱症	上眼瞼熱症	
227	6		1	8ヶ月	M	SKIN PROBLEM	伝染性膿疱	GM軟膏塗布
228	7		1	60	F	胸痛	筋肉痛	
229	8		1	11ヶ月	M	咳	ARI	
230	9		1	3	M	咳	ARI	
231	10		1	4	F	熱嘔吐咳	ARI	
232	11		1	13	F	頭痛	てんかん	
233	12		1	5	M	SKIN PROBLEM	伝染性膿疱	
234	13		1	6	M	耳の問題	慢性穿孔性中耳炎	
235	14		1	5	M	嘔吐	胃炎	
236	15		1	13	F	腹部痛	便秘	
237	16		1	7	M	嘔吐 下痢	脱水	
238	17		1	9	F	腹部痛		
239	18		1	55	M	腹部痛	消化性潰瘍	
240	19		1	9	F	咳	ARI	
241	20		1	6	F	咳	ARI	
242	21		1	54	F	めまい	弁置換術後	
243	22		1	2ヶ月	M	めまい	気管支肺炎	
244	23		1	39	F	腹部痛	外傷後ストレス障害	
245	24		1	56	F	下肢痛	湿疹	
246	25		1	30	F	下痢	肺炎	
247	26		1	6	M	咳	ARI	
248	27		1	3ヶ月	M	下痢 咳	赤痢	
249	28		1	34	F	めまい 咳	鬱	
250	29		1	5	F	咳	ARI	
251	30		1	10ヶ月	M	咳	ARI	
252	31		1	30	F	頭痛	睡眠障害	
253	32		1	36	M	SKIN PROBLEM	白癬症	
254	33		1	3	M	熱	ARI	
255	34		1	40	F	咳	肺結核	
256	35		1	3	M	咳	結核	
257	36		1	27	F	腰痛	肺炎	
258	37		1	6	F	下痢	ARI	
259	38		1	39	F	掻痒	湿疹	
260	39		1	16	F	頭痛	緊張性頭痛	
261	40		1	44	F	咳	ARI	
262	41		1	13	F	咳	ARI	
263	42		1	34	F	SKIN PROBLEM	睡眠障害	
264	43		1	52	F	頭痛	偏頭痛	
265	44		1	31	F	咳	結膜炎	
266	45		1	4	M	咳	ARI	
267	46		1	1	F	眼の痒痒感		
268	47		1	1	F	息切れ		
269	48		1	80	M	糖尿病 足の潰瘍	糖尿病性壊疽	ソフラ リンデロンVG
270	49		1	35	F	熱	睡眠障害	
271	50		1	11ヶ月	M	SKIN PROBLEM	伝染性膿疱 中耳炎	
272	51		1	45	M	腰痛	筋痛症	
273	52		1	21	F	頭痛	虫歯	
274	53		1	18ヶ月	M	下痢	伝染性腸炎	
275	54		1	46	F	皮膚の痒痒感	白せん	
276	55		1	2	M	下痢 下腹部痛	アメーバ赤痢	
277	56		1	68	M	心臓の問題	狭心症	
278	57		1	25	F	SKIN PROBLEM	筋肉腫瘍	
279	58		1	31	F	SKIN PROBLEM	白せん	

日時 場所 年齢 性別 主訴 診断名 処置

280	1	10月16日	37	M	腹痛	登高症		バファリン8	
281	2		42	M	SKIN PROBLEM	湿疹		レスタミン軟膏10	
282	3		62	M	腹痛	登高症		バファリン8 ポララミン6	
283	4		96	M	熱	マラリア		ファレジダーム	血球染色へ
284	5		30	M	頭痛	緊張性頭痛		バファリン4	
285	6		34	F	頭痛	睡眠障害		ホリゾン6. バファリン6	
286	7		6	M					健康
287	8		42	F	眼の違和感	アレルギー性結膜炎		AZ点眼1	
288	9		46	F	咳	肺炎		ウインタマイロン6	
289	10		29	M	手の怪刺	手の怪刺		敵トキ1	
290	11		50	F	腹痛	湿疹		ポララミン6	
291	12	8ヶ月	F	下痢 吐き気	下痢嘔吐腹水			ORS2	
292	13		26	F	下腹部痛	肺炎		ウインタマイロン6 AZ点眼1	
293	14		21	M		肺炎			現地医者へ 地域では有名な肺結核患者
294	15		3	F				ビトレン6	
295	16		48	F	SKIN PROBLEM	虫刺され症		オイラックス10 ポララミン6	
296	17		30	M	腹痛	胃炎		セルベックス6 アズレン6	
297	18		34	F	不眠			ホリゾン6	
298	19	1/7ヶ月	F	咳	ARI			メジコンシロップ ポルクレン	
299	20	1/7ヶ月	M		寄生虫			メベンダゾール3	
300	21		3	F		寄生虫		メベンダゾール3	
301	22	7ヶ月	M	熱 鼻づまり	ARI			ボントールS	
302	23	1/5ヶ月	F	熱	腹水	ソリダ200ml		ORS2	
303	24		34	F	下腹部痛	子宮筋腫		バファリン4	
304	25		6	M	胸痛	小児PTSD		バファリン8	
305	26		2	M	腹痛	肺炎		ピオフェルミン6	
306	27		8	F		寄生虫			
307	28		40	F	腹痛 下痢	逆流性食道炎		セルベックス8	
308	29		47	F	皮下出血 鼻血 下痢				
309	30		9	M				ビトレン4	健康
310	31	8ヶ月	M		肺炎				
311	32		8	M	腹痛	寄生虫		メベンダゾール6	
312	33		2	F	白ナマズ			ミュージス錠1	
313	34		10	F	硬直性痙攣	てんかん			現地医者へ
314	35	1/8ヶ月	M	下痢	アメーバ赤痢	ソリダ錠100ml		ORS2 フラジール3	
315	36		4	F	腹痛				健康
316	37		34	F	腹痛 腹痛	緊張性頭痛		バファリン8	
317	38		65	F	SKIN PROBLEM	下肢怪刺		ポララミン4	
318	39		12	M	耳の問題	耳垢			
319	40		27	F	下腹部痛	子宮筋腫		バファリン8	
320	41		8	M	耳の問題	耳垢		タリビット点眼1	
321	42	2/8ヶ月	F	熱 SKIN PROBLEM	伝染性膿疱			ミュージス錠1+ピクシリンドライシロップ20g	
322	43		10	F	耳の痛み 腹痛				健康
323	44		4	F	違和感	創治療後色素沈着			
324	45		5	F	耳の痛み 熱	耳垢		タリビット点眼1	
325	46		11	M	吐き気 めまい	化膿性副鼻腔炎		小バファリン8	
326	47	2ヶ月	M	増熱	気管支炎			ピクシリンドライシロップ18g	
327	48		3	F	息苦しさ 腹痛	寄生虫			
328	49	11ヶ月	F	熱 咳	湿疹			レスタミン軟膏5g	
329	50		9	M	下痢	アメーバ赤痢		フラジール3	
330	51	3ヶ月	F	SKIN PROBLEM	伝染性膿疱			ミュージス錠1+ピクシリンドライシロップ30	
331	52		5	F	咳	ARI		アズレン6	
332	53		5	M	熱 咳	気管支炎		アミノフィリン8+ピクシリンドライシロップ36	
333	54		7	F	腹痛 熱	湿疹		レスタミン軟膏10g+ポララミン1.5	
334	55		11	F	腹痛	眼痛症		小バファリン8	

335	56	1/4ヶ月	M	咳 めまい 息苦しさ	ARI			ボクシリンシロップ24cc メジコン8cc
336	57	8	F	耳の腫れ	耳垢			クリビット点耳1
337	58	11	F	SKIN PROBLEM	湿疹			ミュージストーン ポララミン6 レスタミン軟膏10g
338	59	6	F		左上眼瞼切創	膿トキ		
339	60	8	M	切創	右前腕切創	膿合 膿トキ		ピクシリン6
340	61	15	F	咳	ARI			アズレン6
341	62	35	F	高血圧 SKIN PROBLEM	子宮内腫瘍 貧血 白せん			マイコスタチン軟膏
342	63	35	F	腫瘍	腎臓性腫瘍			バファリン6 ポララミン6
343	64	3ヶ月	F	咳	ARI			ボルタレンシロップ4cc メジコンシロップ2ml
344	65	2/5ヶ月	F	SKIN PROBLEM	伝染性膿疱瘡			ミュージストーン1 ピクシリンドライシロップ
345	66	13	F	咳 胃痛	ARI			
346	67	21	F	熱 腫瘍	胃炎			セルベックス4
347	68	1/1ヶ月	M	熱 咳	ARI			
348	69	15	F	腫瘍 めまい	月経困難症			バファリン6
349	70	54	F	胸痛 咳	慢性気管支炎			アミノフィリン6
350	71	6	F	耳の痛み	耳垢			
351	72	25	M	下腹部痛	胃炎			健胃錠4
352	73	3	F	耳の腫れ	外耳道炎			ゲンタシン軟膏
353	74	54	F	腫瘍 皮膚 眼の腫れ	腎臓性腫瘍			バファリン4
354	75	6	F	SKIN PROBLEM	前頭部腫瘍			
355	76	6	F		回虫症			現地医者へ
356	77	7	F	耳の腫れ	耳垢			
357	78	79	M	足の腫れ				マイコスタチン軟膏5mg
358	79	68	F	眼の腫れ	結内症			現地医者へ
359	80	3	M	腫瘍	回虫症			
360	81	55	F	腫瘍 下腹部痛	腎臓症			バファリン4
361	82	50	F	腫瘍 結核菌	膀胱炎			ウイントマイロン9
362	83	1/6ヶ月	M	熱	ARI			
363	84	3	M	咳	喘息			アミノフィリン2 ピクシリン9
364	85	57	M	咳	肺炎症			ユリスロマイシン6
365	86	2	F	SKIN PROBLEM	伝染性膿疱瘡			ゲンタシン軟膏 ミューズストーン ピクシリンドライシロップ6
366	87	24	F	SKIN PROBLEM	湿疹			ポララミン 6
367	88	9	M	腫瘍	回虫症			メベンダゾール6
368	89	31	M	咽喉痛	口内炎			アズレン6 プスコパン4
369	90	720	M	腫瘍	胃炎			セルベックス6
370	91	721	F	左鎖骨の痛み	膀胱炎			ウイントマイロン16
371	92	40	F	咳 貧血 四肢麻痺 頭痛	視床			ヴィトレン6
372	93	18	M	SKIN PROBLEM	白せん			マイコスタチン軟膏10mg
373	94	7ヶ月	M	下痢 嘔吐	脱水	ソリダ顆粒100ml		クロマイシロップ ORSI
374	95	23	M	腫瘍 SKIN PROBLEM	白せん			プスコパン4 マイコスタチン軟膏5mg
375	96	56	F	腫瘍 咳 めまい	高血圧			アグラート9
376	97	56	F	咽喉痛	咽頭炎			ピクシリン16 プルファン9
377	98	27	F	腫瘍 咳	喘息			アミノフィリン6
378	99	48	M	腫瘍 咳	結石症			プスコパン6
日時	場所	年齢	性別	主訴	診断名	処置	薬剤	備考

10月17日

398	20	1	F	咳	ARI		バラセタモール4
411	33	1	F	下痢SKIN PROBLEM	腸炎	ソリダ顆粒	ORS2
446	68	1.5	M	鼻水	気管支炎		
387	9	2	F	咳 胸部圧迫感	ARI		ポントール18 ビクシリン 30
389	11	2	M	眼に異物	結膜異物	眼洗浄	
386	8	3	F	熱	肺炎	ソリダ顆粒200ml	ORS1 ビクシリン9 小バファリン1
380	2	3	M	眼の問題	脱水 結膜炎	ソリダ顆粒100ml	ORS1 AZ点眼1
396	18	3	M	熱 頭痛	ARI		ポントール18
414	36	3	M	咳	気管支炎		ビクシリンドライシロップ45ml
400	22	5	F	SKIN PROBLEM	伝染性膿疱瘡		ビクシリン3 ガンタシン軟膏
421	43	5	F	熱	ARI		ポントール20ml
383	5	6	F	熱 頭痛	ARI		小バファリン8
385	7	6	M	熱 咳	ARI		アミノフェリン6 小バファリン12
422	44	6	M	SKIN PROBLEM	白せん症		マイコスタチン軟膏
432	54	6	M	切創	切創	馬麻 消毒 破トキ	ビクシリン9
401	23	8	F	SKIN PROBLEM	伝染性膿疱瘡		ビクシリン3 ミューズ石鹸
427	49	8	F		ARI 中耳炎		タリビット点耳薬
384	6	8	M	腰痛			健康
390	12	8	M	SKIN PROBLEM	伝染性膿疱瘡		ミューズ石鹸 ガンタシン軟膏 ビクシリン 30
455	77	8	M	右下肢腫脹	虫こぶ症		
407	29	9	M	鼻づまり			エリスロマイシン8 ブルファン8
428	50	9	M	耳の痛み	中耳炎		タリビット点耳薬
419	41	10	F	切創	切創	馬麻 消毒 破トキ	ビクシリン9
415	37	10	M	咳	ARI		バファリン12 アズレン6
420	42	10	M	ケイレン	てんかん		現地医師
405	27	12	F	SKIN PROBLEM	白せん症		ボララミン8
430	52	12	M	耳の痛み			タリビット点耳薬
404	26	13	F	切創	切創	馬麻 消毒 破トキ	ビクシリン6
388	10	16	F	SKIN PROBLEM	白せん		マイコスタチン軟膏 ボララミン4
406	28	18	M	腰痛	緊張性腰痛		バファリン6
431	53	24	F	頸部痛	筋痛症		バファリン4
412	34	30	F	腰痛	肥石症		ブスコパン6
402	24	30	F	足の痛み		切開	バファリン6 ビクシリン6
413	35	30	F	SKIN PROBLEM	湿疹		ボララミン8
426	48	30	M				
409	31	33	F	右胸部痛	筋痛症		バファリン4
417	39	34	F	CBP	腸炎		ブスコパン6 ビオフェルミン6 サクリリン6
399	21	35	F	腰痛	筋痛症		バファリン6
408	30	42	F	頸部背中痛	頸椎捻挫		ホリゾン8 バファリン6
441	63	43	M	痛い	左手首骨折の疑い		
410	32	43	M	腰痛	胃炎		ブスコパン6 セルベックス8
425	47	51	F	胸部圧迫感			
423	45	51	M	CBP	筋痛症		ボルタレン4
418	40	55	F		変形性膝関節炎		ボルタレン6
379	1	10月17日 1	60	F	左不全痔瘻	痔瘻中	アダラート9
424	46	61	M	左半身の痛み	変形性膝関節炎		ボルタレン6
394	16	62	F	腰痛	胃腸炎		健胃錠6 ビオフェルミン6
429	51	71	F				メベンダゾール12
416	38	76	M	左肩から腹部への痛み	肩関節周囲炎		バファリン6
393	15	78	M	めまい	高血圧 狭心症		アダラート9

10月17日

403	25		86	F	高血圧	高血圧症					
382	4		100	M					小バフェリン18	ピクシリン3	プルゼント3
397	19			F	腰痛	膵炎			ソリダ顆粒4		
392	14		1/2ヶ月	F	下痢 SKIN PROBLEM	脱水 白せん	ソリダ顆粒100		ORS1	マイコスタチン軟膏	
381	3		1/3ヶ月	M	咳	気管支炎				ピクシリンドライシロップ9	ORS1
391	13		2/8ヶ月	M	下痢	アメーバ赤痢	ソリダ顆粒100ml	ORS2	クラジール3		
395	17		8ヶ月	M	SKIN PROBLEM	腸ヘルニア					
		日時	場所	年齢	性別	主訴	診断名	処置	薬剤	備考	
435	57			F			切創				
436	58			F			切創				
439	61			F			切創				
440	62			F			切創				
445	67			F	SKIN PROBLEM						
449	71			F			切創				
450	72			F			切創				
451	73			F			切創				
454	76			F			切創				
433	55			M	痛い		切創				
434	56			M			切創				
437	59			M			切創				
438	60			M			切創				
442	64			M	SKIN PROBLEM						
443	65			M	SKIN PROBLEM						
444	66			M	SKIN PROBLEM						
447	69			M			切創				
448	70			M			切創				
452	74			M			切創				
453	75			M			切創				

健康

(表-2) 1997年度マコリス県感染症統計

Page

Ref.: Epi_r01

SECRETARIA DE ESTADO DE SALUD PUBLICA Y ASISTENCIA SOCIAL
 DEPARTAMENTO DE INFORMATICA
 ENFERMEDADES DE NOTIFICACION OBLIGATORIAS REPORTADAS SEGUN MESES
 DURANTE EL AÑO DE 1997

Fecha 05/21/98
 Hora 13:38:39

Unidad: 5-23-

No. Orden	Enfermedad	MESES												Dic. Totales
		Enero	Febrero	Marzo	Abril	Mayo	Junio	Julio	Agosto	Septiembre	Octubre	Noviembre		
Establecimiento: 5-23- - - -														
1	BILHARSIASIS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	BLNORRASIA	0	0	5	8	6	4	14	7	6	7	2	1	60
3	BRUCELOSIS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	CHANCRO BLANDO	14	0	0	2	2	0	0	1	1	1	0	0	21
5	DENGUE	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	DIFTERIA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	E-GASTROENTERITIS	307	325	252	271	307	172	294	185	174	179	39	97	2,602
8	D-DIARREA	532	502	531	561	666	345	815	585	314	369	109	161	5,490
9	A-DISENTERIA	26	26	20	56	32	20	7	9	14	5	0	2	217
10	FIEBRE PARATIFOIDEA	2	4	2	2	0	1	1	2	0	0	0	0	14
11	FIEBRE TIFOIDEA	11	21	22	21	5	15	25	19	18	7	0	4	168
12	FILARIASIS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	HEPATITIS A	8	7	8	19	18	12	12	14	27	14	7	3	149
14	I-BROQUITIS	257	186	161	204	198	97	170	107	79	35	24	82	1,600
15	R-NEUMONIA	104	114	58	112	108	99	103	92	64	81	50	43	1,028
16	A-INFLUENZA	1519	1482	1325	1983	2155	1325	1788	1187	867	1132	308	759	15,830
17	ENCEFALITIS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	MENINGITIS BACTERIAN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19	MENINGITIS INESPEC.	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	LEPRA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21	LEPTOSPIROSIS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22	LIFOGRANULOMATOSIS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23	PARDITIDITIS	0	3	13	31	38	4	3	6	1	2	0	0	101
24	PARALISIS FLACIDA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25	RABIA ANIMAL	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26	RABIA HUMANA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
27	RUBEOLA	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
28	SARAMPION	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
29	SIDA	2	3	0	1	2	1	0	2	0	3	0	0	14
30	SIFILIS	2	4	0	4	2	1	1	4	4	3	0	4	29
31	TETANOS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
32	TETANOS NEONATAL	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
33	TOSFERINA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34	TOXOPLASMOIS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
35	TUBERCULOSIS PULMONA	1	0	10	20	22	16	10	16	14	15	17	5	146
36	PALUDISMO	0	0	2	1	1	0	0	2	0	0	0	0	6
37	VARICELA	9	8	7	5	16	7	5	2	3	1	0	0	63
38	COLERA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
39	FIEBRE AMARILLA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40	POLIOMIELITIS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
41	PESTE	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第3章 看護分野報告

1. 仮設診療所における看護活動

(1) 仮設診療所の設定

我々は10月10日より17日までの8日間、サン・ペドロ・デマコリス県（カヤコアとエル・プエルト）とラ・ロマーナ県（カレタとクマヤサ）において、4ヶ所（現地診療所の借用2ヶ所、民家1ヶ所、避難所1ヶ所）で診療を行った。

(2) 仮設診療所での活動方針と人員

各地区、各仮設診療所により異なるが、活動方針としては、現地スタッフと共同で行い、数多くの患者を診た。人員配置は基本的には薬局、処置、診療介助部門とした。患者はすべてスペイン語を話したため通訳2名が配置された。混乱や、誤認を防止する目的で、カルテに番号を記入してその番号を患者の右手背に油性マジックで同一番号を記入した。言葉の問題で、机や壁に身体の絵を書きその部位や、簡単な症状の単語を記入して貼り、患者に指してもらったりした。また、現地スタッフにも参加協力してもらった。

(3) 診療内容

診療の内容は多岐に渡った。衛生環境又は居住聚境の悪化に伴う下痢症、風邪、喘息、赤痢、皮膚病、結膜炎等の他、被災後の瓦礫による怪我等外傷も相当数みられた。診療患者数は延べ約465名であった（巡回診療時の患者数も含む）。午前中から診療を行う場合には早朝から移動や設営等を行い8時30分からは受け付けを開始したが、受け付け開始の1時間以上前から列をなして我々を待っている村さえもあった（ElPuertos）。午後までの診療の場合には4時頃には受け付けを終了したが、最後の患者の診療が終了するのは5時近くなった。医師が1名であるため処置は看護婦（士）がおこなった。時として局部麻酔下の簡単なデブリートメントまでもおこなったが問題はなかった。各隊員が個々の役割を確実にやり、お互いを信頼して順調な運営であったが、今回派遣チームが1チームだけであり、個人の役割が多くなってしまった。医療調整員の役目の隊員に本来なら、看護職が担当する薬局業務を行ってもらった（スペイン語ができるため、服薬指導および製剤も依頼した）。そのため、本来の業務が十分に遂行されなかった事も考えられるが、協力隊員として協力して行動できたのは良かったと思う。個人の長所をいかした活動も必要にはなるが、状況に応じて、他部門の様子をみてカバー体制がとれるチーム編成が重要となるが、その中でもチームワークをとる必要がある。言葉の問題については、他の隊員やJ O V Cの2名のおかげで業務には、全く支障がなかった。

(5) 総括（その他）

今回4ヶ所の仮設診療所を開設した。ホテルから仮設診療所までの所要時間は、遠く離れているところでも100分程であり、診療終了後は全員毎日ホテルまで帰ることが出来た。食事は朝・夕食は保証されていた。夜間外出禁止令がまだ出ていたものの、宿舎が確保されていたので隊員全員元気に過ごす事ができた。各集落を巡回して特に

感じられたことは、食料と飲料水の慢性的不足が感じられた。医療面では、ある程度定期的に、現地医師団や民間医師が巡回しており重症患者は認められなかったが、継続的な医療はなされていないようであった。しかし、エルエリーサの集落のように医師の巡回が不定期であり、劣悪の環境状態の中で忘れられつつある集落もあることも確認した。住人のケガの認識も我々とは異なっていた。「ケガ」とは、血が出ていて大きな傷をケガといい、数日たち血が出なくなったらケガではないという感じであった。しかし、我々の眼から見ると立派な「ケガ」であり傷であると思われた。本来なら、問題なく完治してしまうような傷でも、今回の災害で衛生面、栄養面等の問題で悪化する可能性も十分に考えられると思う。現に小さな傷が化膿しているような状態で、縫合後10日以上経過しているのに、抜糸されていなく発赤・腫脹している症例が数多く見られ、化膿している創部も多く見られた。大災害時での急性期及び亜急性期においても、継続的で計画的な医療が基本であると思われた。しかし、時としては（疾患的にも）、その場その場の適切な医療の必要性を痛切に感じた。

またチーム内のコミュニケーションも8日間に4ヶ所のクリニック設営・撤収と作業の日々ではあったが、回を重ねる毎に、要領とチームワークがよくなってきたと思われる。夕食を兼ねての毎日のミーティングでの話し合いや、個人的な話も含めて、隊員間の人間関係作りがうまく行った事も、活動を全員が元気で終えれた一因に挙げられると思う。言葉の問題は、国際協力を行う上でネックとなるが、スペイン語訳症状や身体のポスターを作成・活用し、積極的に患者とのコミュニケーションを図る姿があった。加えてJOCV隊員には、スペイン語で力になってもらっただけでなく、ドミニカの生の情報を頂き、現地理解に大いに役立った。患者のプライバシーは、処置室は各場所とも一室が配置され、又、診察室もクマヤサ以外は一室を、クマヤサではスクリーンで囲い、守った。携行器材・薬品の種類、ジュラルミンのどこに入っているかを把握しておくことも、慌てないで活動がスムーズにいく要因の一つであった。

2. 被災地状況と巡回診療

(1) カヤコヤ村近隣

カヤコヤ村、人口約2000名、サトウキビ栽培等が主産業である。現時点でのハリケーンの被災者数は不明。家屋の倒壊等で住居のない約22家族150名が小学校に避難中との情報があった。村全体としては、国道沿いに沿った全長約7～8km長細い村であった。当然電気はない。電信柱は殆ど木製、コンクリート製、鉄塔を問わずなぎ倒されていた。家屋もきつと密集していたと思わせる痕跡は確認できた。メンバーは、私と上條氏とJOCVの保健婦の矢田さんの3名で活動した。この地区では時間の余裕がなく仮設診療所から、割合近くにあるカヤコア小学校（避難所）を視察、巡回診療（原則として投薬はしなレ）と公衆衛生指導を行った。校舎に損傷は認められなかったが、周りのフェンスやコンクリート製の壁は70%破壊されていた。訪問時まず、異臭とハエの多さに仰天した。慢性の食料不足のためか、大人達は食料を欲しがった。反面子供達は、陽気に集まってきた。1教室を2～3家族が使用しており水の制限も

あり環境は悲惨であった。避難生活の期間から精神面にも影響が出て来ており、短気になっている人も多く危機感も感じた。ハリケーン襲来後約2週間経過しているため、大きな外傷(5cm以上)はなかった。しかし、衛生状態が悪く小さな傷も殆ど感染していた。処置としては、イソジン消毒しゲンタマイシン軟膏の塗布を行った。下痢症やA町の患者は診療所に行くように勧めた。2日間の消毒で殆どの創が良くなっているのに少し驚いた(約10名程の創処置)。衛生面では、「水」(生活用水、飲料水共)に大きな問題があると思われた。ここには、埋め込み式の貯水槽(コンクリート製で深さ約2.5m)がありフロート方式(水洗便所のタンクの大きいもの)であった。管理面では、世話役が決まっており十分であると感じられた。供給源は現地の人も知らなく山から送られて来るらしい。しかしなんらかのトラブルで供給されておらず水位も約50cmしかなく、水の制限を厳しく行っていた。中にはこの水を飲料水として使用している人もみかけた。

カヤコア(クリニック内)ではクリニック内を患者の動線を考えて、先方医師等と協議し、資機材をセッティングする。トリアージに厚生省サン・ペドロ・デ・マコリス事務所からの派遣看護婦マリアとJOCV保健婦・矢田隊員が配置された。診療は団長、通訳にJOCVの永野隊員、診療介助・処置に鈴木隊員、与薬に玉井隊員、処置・与薬に白柿隊員が配置された。現地診療所のウーゴ医師は、当所戸惑いを醸さない様子であったが、次第に団長の診察につき、団長と意見交換をしていた。与薬の補助に、現地の健康推進員のフェリッペが配置された。処置が必要とされた患者らは、災害時負傷した四肢の開放性損傷であり、時間も経過しており汚い。処置の方法は、洗浄+イソジン消毒+縫合が主で、傷の状態によりソフラチュールやステリ・ストリプト貼用、ゲンタシン軟膏塗布を行った。災害とは関係のない膿腫形成の患者には、切開・排膿処置を行った。脱水の小児には、ソリタ粒/OR S(現地調達)をその場で与薬した。点眼・点耳・眼軟膏指示に対しても説明をしその場で実施した。器具の使用は最小限にとどめ、イソジン消毒をし使い回した。消毒や軟膏塗布には、綿棒を活用した。洗浄排液や不潔ガーゼ等をうけるのにナイロン袋を活用し、後始末が楽に行えた。不潔針等は、プラスチック容器に入れ、現地看護婦マリアに廃棄処分を依頼した。初回の活動を終え、いくつかの問題点から、次の5点が改善され、翌日に実施された。*診察を団長と現地医師の二診体制とする。*トリアージに現地医師を加え、選別作業の効率化を図る。*現地看護婦マリアもしくは矢田JOCV隊員にはフリーの立場で忙しい所のヘルプも兼ねる。*クリニックの構造と患者の動線から、処置用器材とベットのある部屋を離れて配置したが、無駄が多かったため処置用器材をベットのある部屋の近くに移動する。(結果的に診察・投薬の場からは少し離れた。) *二診体制となり、調剤に白柿隊員が入る。移動した処置室スペースは投薬の待ちあいとする。カヤコアでの二日目は、上記改善点を実施し、スムーズに流れるようになったが、二診体制となり各部所が多忙を極め、コミュニケーション不足によるスタッフ間の思いの行き違いが見られた。特に投薬では、ケアレスミスを防ぐため、ダブルチェックをこころがけた。内服薬は、ジュラルミンケースから出し横に配列し、見やすく

取り出し易くした。又、一旦ケースから出した。箱には収納ケースナンバーを記入し、収納時の混乱を避けた。新たな処置に、小児の点滴が加わった。

(2) マコリス近隣—コンスエロ周辺

街の様子は、どこも同じで電柱はことごとくなぎ倒されており、道路をふさいでいた。ここの職業訓練校は全て屋根が吹き飛ばされていた。健康状態はARIが多く認められたが、外傷は少なかった。現地の医師の巡回診療も確実に行われているとのことであった。人々は、陽気で友好的で市内の4つの小学校も普通の授業を行っていた。約30分後にMonte Cocaの村（人口約1500名）に到着した。このあたりから、視界にはサトウキビ畑しかなくなった。小学校には数家族の避難民がいるとの情報で訪問した。4日前に地元医師が巡回したとのことであった。診療内容は、重症患者のみを診察しただけという感じを受けた。右拇指骨折でギブス固定をされた患者がいたが他の人は診察を受けていないとのことであった。患者は数100m先に村があったため約20名程がやって来た。内容は2日前に転倒した42歳の女性が右手関節の骨折の疑いで、シーネ固定し病院に行くように指導した。他は殆どA町とSkin Problemであった。外傷と火傷の患者も数人いたがイソジン消毒とゲンタシン軟膏塗布を行った。この先にまだ集落があるとのことと帰り道に村に再度寄ると約束してこの場を去った。さらに15分程行くとPaso Nondoniの村（人口約200名）に到着したが、殆ど人影はなかった（サトウキビ畑に働きに出かけたと思われるが、不思議なことに子供たちの姿は見かけなかった）。さらに30分程走るとLa Plaza（人口約300名）の村に到着した。避難所には2家族が避難生活を送っていたが健康状態は良好であった。この地区も現地医師が巡回しているとのことであった。重症患者及び外傷の患者は特に見あたらなかった。帰り道に最初のMonte Cocaの村（人口約1500名）に立ち寄り巡回診療を行った。村の長は不在であり、夫人に巡回の主旨を説明し許可を取った。ここの村には、外傷が多く10数人の患者がいた。中には、足の指を挟んで爪がはがれ通常の倍ほどに腫上り、化膿しており骨までいっているような患者がおり、消毒後すぐに病院に行くように指示した。

(3) マコリス近隣（サトウキビ畑内）

San Pedro de Macoris内の東部（国道沿いの2箇所とやや内陸部に入ったサトウキビ畑内の5～6箇所）の巡回を行った。サトウキビ畑で働く人々は一般にハイチ人が多く、より貧困であるとの情報があった。国道から少し入ったEsperan村はハイチ人の集落であり人口等は不明であった。国道から近いことから医師の訪問はあるとの事だが、薬は殆どないと思われた（処方せんはもらえるが、薬局で薬を購入するお金がない）。ハイチ人の集落の特色として、家の境界線がばらばらで道を間違えると袋小路になっている場合が多い。また肌の色が限りなく黒色に近づいていることが多いなどが特色である。この村も同様であり一人で巡回していたら、袋小路に入ってしまう思わず声を出してしまう一面もあった。家の中も何も無く空間がとても空しさを感じられた。疾患的には、やはりARIや小さな外傷が多いようだった。町に比較的近いことから重傷者はいなかった。10分後Cocoという人口800名ほどの町に到着。ここに

は、女医のFriaが常勤していた。彼女によるとハリケーン後1週間は外傷患者が多く現在は、下痢症、ARIが多いとのことだった。また、この村でも食料、医薬品の不足が目立っているように思われた。この後山の中（サトウキビ畑）へ向い、サトウキビ畑の中で1つの集落を発見した。この地域は幸運なことに水は十分に供給されていた（風車が破壊されておらず、地下水の組み上げが行われていた）。場所的にも山の手のため水質も比較的良質だと思われた。被害状況は、場所にもよるがハリケーン襲来後は、バラック様の家屋は60~70%崩壊していたとのことである。現在は、30%強であった。コンクリート製の建物も完全に破壊されているところもあれば、まったく無傷の所もあった。トウモロコシが風よけになった要因も十分に考えられた。健康状態は、比較的良好であるように感じられたが、やはり、「けが」の感覚が我々とは違っているように思えた（虫に刺されて？右下肢が左下肢より倍近くにも腫れ上がって膝も曲げられない様な状態でも放置してあった。我々は、ちゃんと病院で早期に受診するように説明した）。あまり重症疾患がない要因として、民間のトウモロコシ畑のためか会社嘱託の医師が定期的に巡回しているようであり、重症患者は病院へ搬送し、また、ある程度の薬剤を配付しているとのことであった。とある集落に限っては、上院議員が直接訪問して数回の食料援助を行ってくれたとのことであった。しかし、巡回した集落の殆どの人々は食料不足を訴えていた。

(4) クマヤサ近隣（エルエリーサ）

以前は、家屋が密集していただろうと思われるような跡があった（推定人口800人程度）。家屋のすぐ横にゴミ収集車がゴミを吐き出している。その横でゴミを焼却しており、その横には裸足で空きビンを集める子供たち、親子連れの黒ブタと野犬の群れが環境状態は最悪といった状態であった。小さな傷も化膿している状態であった。医師の巡回は今までに1回、それも部分的であるとのことである。重症患者は、自力で病院に行くしかないような感じをうけた。

ここクマヤサの集会所を椅子・長机・スクリーンでしきり、診察室と調剤・投薬と大きく二区分した。処置室は奥の物置き部屋へ配置した。前日同様、団長の一診・現地医師の待擦・協力/団長の診察補助の体制をとった。トリアージでの混雑はいつもの事だが、全体的に要領を得、4ヶ所めの活動を終える事ができた。処置室と診察室がやや寵れており、前処置が終わった時点で、無線を使って団長を呼び、手際よく行った。贈与薬品・資器材のチェック/リストアップを行い先方に供与した。

(5) エル・プエルト（クリニック内）

団長と現地医師の二診体制での診療活動実施により、隊員の配置も前回同様で行った。クリニックの看護婦リリーの参加があり、点眼・点耳等の処置や外科処置時の鈴木隊員の介助とした。現地クリニック医師の処方せんが一般名で書かれてあり、何度も診察室を尋ね確認したが、調剤には苦勞した。

水薬瓶の不足が予測出来たが、その場での補充が出来ず、水薬の投薬が中止となった。（常に在庫チェック/管理/補充にもアンテナを張っての活動が求められている。）患者の流れは、良いのだが、制限しているにもかかわらず、とにかく人がクリ

ニック内・外と多く、騒然とした中での活動だった。

(6) カレタ（一般民家にて）

団長の一診体制・後方病院の医師・看護婦／厚生省事務局の医師等が待機し協力する体制を採った。家の間取りが、患者の動線と一致し、にわかクリニック内は、スムーズだった。加えてJDRの隊員も診療活動に慣れてきたようで、活動への緊張感が取れてきた事も著慮される。携行薬品の不十分が見られ始め、現地医師に調達を依頼し、快く鶴力を得た。首都で買い求めてもらった水薬瓶がわりのプラスチック容器に目盛りがなく一露悩んだが、現地での水薬投与は小さじが一般的と聞き、小さじで飲めるように調剤した。受付を待つ間に、ケイレン発作を起こした女兒が運びこまれたが、30秒もしないうちに安静臥床でおさまり、主訴の腹痛の内服投薬を受けて歩いて帰宅した。小児の膝関節内水腫に対して、punkチオン施行し、せん刺液は、後送病院へ検査依頼した。

第4章 医療調整員報告

1) 隊員の活動状況

当団は緊急援助隊から5名のメンバーで派遣されたが、現地ドミニカ共和国 JICA 事務所から青年海外協力隊隊員の2名の協力を得て、計7名で活動した。現地で参加した2名は、緊急援助隊の導入研修も受けておらず、はじめは少し戸惑いを覚えていたように見受けられたが、時間を経ることで、活動になじんでくるのがわかった。また医師である箕輪団長が頻繁に団内会議を召集して、その都度必要事項を整理し意見調整を図り、全てにおいて納得した状態で活動できたことがチームワークに結びついて活動がスムーズにいった大きな要素だったと思う。一応活動分担範囲を決めておいたが、結果的に患者の流れ具合や現地ドミニカ共和国側スタッフとの兼ね合いで、隊員自身の判断で臨機応変に無駄なく活動できたと思う。しかし箕輪団長と上条業務調整員は、その業務内容上、相談相手や業務代行者がおらず、肉体的にも精神的にも多大なストレスを感じただろうことが想像できる。ひとチーム編成の難点が出たように思う。

2) 医療活動上で感じたこと

4箇所の活動現場のうち3箇所で、ドミニカ共和国側スタッフと共同で医療活動を行ったが、投薬は現地医師の処方も含めてすべて当隊が持参したものを使用した。ドミニカ共和国との医療体制の違いだろうが、処方箋の書き方や投薬の方法が日本とは随分違いがあるように思えた。たとえば頓服薬について、患者に説明してもなかなか理解してもらえなかったりしたし、現地医師は薬の頓服の概念が薄いような印象を処方箋から感じた。しかし現地スタッフの看護婦がなれるにしたがって、当隊の意思を飲み込んでくれるようになり、現地医師や患者の間に入って説明を繰り返してくれるなど、積極的な態度をとってくれたため、問題は残らなかったと思う。

3) 隊員の体調について

活動日数が重なるにつれて隊員にも疲れが見え始めるようになった。時間的に可能な日は、昼食時にできるだけホテルに戻り携帯した食料品(日本食など)を取り、少しの時間でも休むようにした。しかし現地医療活動の最終に差しかかった頃になると嘔吐した者一名、下痢した者二名、頭痛を訴える者一名、めがねを割った者一名、慢性的睡眠不足を訴える者一名等の報告があった。活動にはさほど影響は出なかったもののやはり2週間というのは活動の限界だと思われた。途中一日のリフレッシュデイを設け、それぞれ自由行動日とした。避難所の視察、資料整理、海辺の散歩等ゆっくりした気分ですごせた。それは大変意義深い一日だったと思う。

4) 携行機材について

医療機材や薬品はもちろんだが、食料品や生活資機材にいたるまで、無駄なものはほとんどなかった。今回はホテル住まいだったが、ホテルに飲料水ボトルが一本も無くなった日があって小型濾水器も大活躍した。また大工セットも思いもよらない場面で活躍したし、ミューズ石鹸は患者への処方で消費したのが印象的だった。携行資機材の中に入れて欲しいものを上げれば、スプレー式の殺虫剤、肌用虫除け剤、瞬間冷却剤、電気ポットなどがあつたら良かったと思われた。中太マジックの4本はすぐに底をついてしまった。現地追加調達できたものは使い勝手が悪く、少なくとも隊員の人数分本数が欲しかったもののひとつであった。医薬品の中では小児要量点滴液の必要性を感じた。

5) その他

活動期間の都合上診療時間が短くせつかく集まってくれた患者全員への対応ができなかったのが残念だった。しかし継続的にある程度の診療ができるように、また継続治療ができるように現地医師と相談して必要な医薬品を現地にある程度おいて来た。役立っていることだろう。

今回当医療チームに参加できたことは、私にとって、とても有意義だったと思う。これからも機会があれば積極的に参加したいと強く思った。

以上